

令和2年度 自己評価表

中長期目標 (学校ビジョン)		技術を研ぎ、身体を鍛え、心を磨くことをとおして、優れた知性や創造性を身に付けた(まいつた)、感動したり他者を思いやるあたたかな心を兼ね備えた、健全で個性豊かな人材の育成をめざす。		今年度の重点目標	1. 学力の向上 2. 豊かな人間性の育成 3. キャリア教育の充実と進路実現 4. 学校業務改善への取り組み				
評価項目		評価の観点	現状	年度当初 目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	各分野の具体的な取組(中間評価)	評価	
1	①	学力の向上	【授業改善】 ○学力向上研修会を予定日2回実施。学力向上研修を活かしている職員の前割合が38%に上昇 ○アクティブラーニング研修を実施。アクティブラーナーに関する情報発信を開始した ○授業アンケートを実施し、教員に改善案を提示したが、生徒の授業満足度は70.4%に留まる 【学力の育成】 ○進路学習(放課後補講、個別指導)、資格検定対策講座、数学・専門科目の基礎力向上補講を実施 ○基礎力診断テストのDゾーンの生徒の割合は4月に比べて減少したが、「全体の40%以下」の目標は未達成 【学習環境の整備】 ○全学年とも、落ち遅いて授業に追いつく姿勢があられた	【授業改善】 ○職員研修を活かし、「主体的・対話的で深い学び」を実践する職員が増加 ○他の授業者も自らアクティブラーナーの視座を、自らの授業実践に活かすことができる ○能動的に学習することができる生徒の増加 (生徒の授業満足度が75%以上) 【学力の育成】 ○基礎力診断テストを活用し、自らの学びを振り返ることができる生徒 ○数学力を有し、専門授業に対応することができる生徒 【学習環境の整備】 ○「整理・整頓・清掃」を実施し、自ら学習環境を整えることができる生徒	【授業改善】 ○学力向上職員研修(年2回)及び、ICT活用研修の実施 ○アクティブラーナーに活用できる教材の提供及び、「一人一授業公開」の実施 ○授業評価アンケートを実施し、振り返り及び改善に活用 【学力の育成】 ○低学力層の生徒に対する個別相談・指導の実施(基礎学力充実補講) ○進路および資格検定向上・定着のための数学補講の実施 【学習環境の整備】 ○「5・5・あさひ」の発行による、教室整備と授業規律の確立	【授業改善】 ○7月に学力向上職員研修を実施。昨年度の振り返り及び取り組み状況共有 ○4月に学力向上、分教区及び臨時採用への対応としてICT活用研修(オンライン授業導入事例)を実施。一部科目で活用を推進 ○アクティブラーナー関連情報、教員自身によりやすい校Web掲示板で提供、課外時間等のオンラインセミナーは5名が自主参加 ○コロナ禍に伴い、授業計画が変更され、1学期の授業公開は延期であったが、授業公開の反響が好いとして、来年度は互いに授業を見ええし(授業見学遠征)後新設 ○7月に授業評価アンケートを実施。感染症対策に伴い、昨年に比べてグループ活動の満足度が低下 【学力の育成】 ○基礎学力不足の生徒に対する指導を、1学期に各教科4回程度実施 ○数学基礎演習を、工業各教科・数学科が実施 ○2年生で進学補習及び、成績不振者の「学習前自主学習会」を実施 【学習環境の整備】 ○「5・5・あさひ」を発行	【授業改善】 ○2学期末の第2回学力向上職員研修にて、コロナ禍における対話的授業づくりを検討予定 ○オンラインで、分教区及び臨時採用への対応としてICT活用研修(オンライン授業導入事例)を実施。一部科目で活用を推進 ○アクティブラーナー視座を推進 ○授業評価アンケートの分析による、理解の満足度・達成感に繋がる授業づくり・活動場面づくり 【学力の育成】 ○基礎学力不足の生徒への指導を継続 ○基礎力診断テストの結果を適切に活用した指導を実施 【学習環境の整備】 ○「5・5・あさひ」の取り組みを継続 ○Wi-Fi環境の増設	B	
			②	豊かな人間性の育成	【生徒の学習状況と学習意欲の喚起】 ○自宅学習時間が増加 R1第2回93分(日)(H30:83分/日) ○授業規律を身につけようという気持ちで授業に取り組むことができ、学力向上につなげることができた ○アクティブラーニングを取り入れた授業を日常的に意識し、主体的な学習となる場合意識的につづいた	【生徒の学習状況と学習意欲の喚起】 ○自宅学習時間の確保(目標とする学習時間:100分) ○規律ある授業展開、場に応じた適切な動作・集団行動のできる生徒 ○基礎力診断テストを通じて学力を把握し、D30の生徒の補習を行うとともに、進路意識の喚起をはかる	【生徒の学習状況と学習意欲の喚起】 ○自宅学習時間増加に向けて各教科で検討し取り組む ○授業規律を具体的に周知するとともに各行事や学年集会等で集団行動の動きを身につける ○基礎力診断テストを通じて学力を把握し、D30の生徒の補習を行うとともに、進路意識の喚起をはかる	【生徒の学習状況と学習意欲の喚起】 ○6月に自宅学習調査を実施。工業科平均で目標時間を達成 ○授業のルールを明確化し、効果を発揮しているクラスもある。一方で規律を守れない生徒について、学年による個別指導や家庭訪問などし、授業態度の改善に努力 ○予約を決定し、授業開始までの準備完了を徹底させることができた ○教室巡回巡回表を利用し、授業中の生徒の様子を観察、授業態度の悪い生徒について、直接指導を加えながら、授業規律の遵守に努めた ○考査後を中心に、成績不振者(成績不振者)の状況確認や学習目標を喚起 ○基礎力診断テストの結果利用は不十分	【生徒の学習状況と学習意欲の喚起】 ○タブレット等にICT機器を利用した授業の実践 ○自宅学習調査実施 ○授業態度に関するアンケートの指導、学年による個別指導及び家庭訪問などとし、授業態度の改善への継続的な指導 ○継続して、手帳を渡渡し、授業開始前の準備完了を継続的に指導 ○考査後を中心に、成績不振者(成績不振者)の状況確認や学習目標の喚起のための面談の実施 ○基礎力診断テストの結果を主にフィードバック
2	②	豊かな人間性の育成	【人権教育・性に関する指導】 ○人権教育LHRの事前事後研修を行い情報交換もこなした ○生徒情報部の組織に努め、各学年、他分野、スクールカウンセラー、家庭等との連携をはかった ○性に関する指導講演会やLHRを通して、他者を尊重するとともに、性への自立・共生をはかった 【ハバーク・Q・U、いじめアンケート等の活用】 ○Haber・Q・Uアンケート職員研修会を実施した ○いじめ等に関するアンケート(3回目)を実施し、問題の早期発見・対応に努めた 【指導力向上の職員研修】 ○校内の人権教育関係の研修への参加を増やしたが、「一人一研修、2月末100%」 ○校内人権教育研修会(職員向け)を9月に実施	【人権教育・性に関する指導】 ○人権教育LHR・性教育LHRの実施 ○生徒の人間性・道徳性、他者の人権や存在の尊重 ○生徒の実際に合った支援方法により、特別支援を要する生徒の安心した学校生活の確立 【ハバーク・Q・U、いじめアンケート等の活用】 ○Haber・Q・Uアンケートを実施し、そのデータを取り組みや活用についての職員研修を行う ○いじめ等に関するアンケートを実施し、問題の早期発見・対応に努め、関係職員と連携し、対応に努め ○特別支援計画を作成し、活用 【指導力向上の職員研修】 ○研修会や講演会の情報を発信し、研修会への参加を促進 ○事前学習など人権教育LHRの指導案の協議	【人権教育・性に関する指導】 ○人権教育LHR・性教育LHRの実施 ○特別支援計画を早期策定し、その支援に特別支援教育支援員を活用する 【ハバーク・Q・U、いじめアンケート等の活用】 ○1・2年生2回、3年1回のハバーク・Q・Uを実施し、そのデータを取り組みや活用についての職員研修を行う ○いじめ等に関するアンケートを実施し、問題の早期発見・対応に努め、関係職員と連携し、対応に努め ○特別支援計画を作成し、活用 【指導力向上の職員研修】 ○研修会や講演会の情報を発信し、研修会への参加を促進 ○事前学習など人権教育LHRの指導案の協議	【人権教育・性教育】 ○人権教育LHRの事前事後研修を行い情報交換を共有 ○特別支援教育支援員を連携し、支援を要する生徒への面談を実施し、実際に合った支援を実施 ○人権関係講演会を実施(2年生) ○人権教育や特別支援の視点に立ち、教室環境の整備を職員全体で実施 【ハバーク・Q・U、いじめアンケート等の活用】 ○Haber・Q・Uアンケートを実施し、そのデータに関する職員研修会を実施 ○Haber・Q・Uアンケートの活用に関するアンケートの実施 ○いじめ等に関するアンケートを実施し、問題の早期発見・対応に努め、関係職員と連携し、対応に努め ○特別支援職員研修会の実施 ○支援を要する生徒への面談を実施し、実際に合った支援を継続実施 ○特別支援計画書の周知 【指導力向上の職員研修】 ○校外の人権教育関係の研修への参加を増やす(校Web掲示板、個人室内等)	【人権教育・性教育】 ○人権教育LHRに向けての事前研修・事後研修の充実 ○公開人権教育研修会(職員向け)を2学期中に実施予定 ○公開人権教育LHRの実施 ○性教育LHRの実施 ○人権教育や特別支援の視点に立ち、教室環境の整備を職員全体で継続実施 【ハバーク・Q・U、いじめアンケート等の活用】 ○第2回Haber・Q・Uアンケートの活用に関する職員研修会の実施 ○Haber・Q・Uアンケートの活用に関するアンケートの実施 ○特別支援職員研修会の実施 ○支援を要する生徒への面談を実施し、実際に合った支援を継続実施 ○特別支援計画書の周知 【指導力向上の職員研修】 ○校外の人権教育関係の研修への参加を増やす(校Web掲示板、個人室内等)	B	
			③	健全な心身の発達	【基本的な生活習慣の確立】 ○「5・5・あさひ」、あさひ運動については、一定の効果をあげた ○学年・コースの記述が多く、早期発見・早期対応の措置に少し時間差があり、指導への時間がかかったことがあった ○通学先集会を2日間開催するなど落ち着いた状況であった 【ボランティア活動】 ○ふるさと手作りまつり等のイベントボランティアに積極的に参加し、171名の生徒が活動した 【部活動、生徒会活動】 ○部活動では昨より多い150名以上の選手が中国大会や全国大会に出場した ○各委員会の活動が定まった 【環境改善】 ○授業時H28年度比5%減、電力はH28年度比1%減という目標をあげているが、1月で廃棄物2.9%増、電力2.3%減だった 【安全教育】 ○今年度安全教育を実施することができた。しかし、講演内容については今後の検討課題である ○自転車事故12件	【基本的な生活習慣の確立】 ○目標意識やルールで過ごす学習の考え方を身に付けた生徒の増加 ○服装検査の実施と継続的な事後指導 ○問題行動の早期発見・早期対応の取り組み実施 【ボランティア活動】 ○ボランティア活動の場を広げ、参加者を増やした 【部活動、生徒会活動】 ○各クラス委員の活動と生徒会活動の活性化 ○部活動における外部指導者の活用 【環境改善】 ○現場LHR、環境講座等による教職員、生徒への啓発 ○H30年度比削減3.0%減、電力はH30年度比1%減を目指す 【安全教育】 ○交通ルールやマナー等社会生活に必要な正しい知識の習得	【基本的な生活習慣の確立】 ○目標意識やルールで過ごす学習の考え方を身に付けた生徒の増加 ○服装検査の実施と継続的な事後指導 ○問題行動の早期発見・早期対応の取り組み実施 【ボランティア活動】 ○ボランティア活動の場を広げ、参加者を増やした 【部活動、生徒会活動】 ○各クラス委員の活動と生徒会活動の活性化 ○部活動における外部指導者の活用 【環境改善】 ○毎月の達成状況を公開し、教職員、生徒への啓発を行う 【安全教育】 ○全職員による朝の交通安全指導の継続 ○交通安全教室の実施(消防マナー講座、自転車安全、非行防止、薬物乱用防止教室等)	【基本的な生活習慣の確立】 ○今年度、コロナウイルスの影響により企業見学、インターシップ、資格検定試験等 ○技能検定3級、第二種電気工事士・Q・C検定(局)が中止あるは延期 ○部活動は中止の状況が続き、10月の2年生分野別選抜大会は中止(50名選手が参加した) ○資格・検定試験の合格率は初級C・D検定2級(28/34) ○機械検定検定24% (9/38) パソコン利用検定2級33%(2/6) ○危険物乙種4類44% (3/21) 【交通安全】 ○今年度、コロナウイルスの影響により企業見学、インターシップ、資格検定試験等 ○技能検定3級、第二種電気工事士・Q・C検定(局)が中止あるは延期 ○部活動は中止の状況が続き、10月の2年生分野別選抜大会は中止(50名選手が参加した) ○資格・検定試験の合格率は初級C・D検定2級(28/34) ○機械検定検定24% (9/38) パソコン利用検定2級33%(2/6) ○危険物乙種4類44% (3/21) 【交通安全】 ○今年度、コロナウイルスの影響により企業見学、インターシップ、資格検定試験等 ○技能検定3級、第二種電気工事士・Q・C検定(局)が中止あるは延期 ○部活動は中止の状況が続き	【基本的な生活習慣の確立】 ○目標意識やルールで過ごす学習の考え方を身に付けた生徒の増加、継続して生徒の状況把握、情報共有に努力 ○問題行動の未然防止につなげる 【ボランティア活動】 ○コロナ禍により多くのボランティアが中止となり、参加者数28名(9月末) ○引き続きボランティア活動の場を広げ 【部活動、生徒会活動】 ○部活動により生徒増加、球技大会等の行事は未実施 ○コロナ禍により多くの外部指導者を活用し、指導に努める 【環境改善】 ○TEASの7月末までの達成状況は、廃棄物2018年度比0.36%減、電力2018年度比26.2%減 【安全教育】 ○全職員による朝の交通安全指導、指導部による交通安全指導は、計画通り実施し効果を発揮 ○消防マナー講座、交通安全教室は中止、非行防止教室は予定通り実施
3	③	キャリア教育の充実と進路実現	【人材育成】 ○企業見学、インターシップなどの各事業を予定通り実施 【情報発信】 ○H Pの新も昨年に引き続き、増加良好 ○出前授業や中学校体験入学への反応は良好 ○学年によっては昨年以上に学年進捗を改善し、学校の見える化をはかっている 【地域との連携】 ○桜ヶ丘グリーンゾーンの清掃活動を実施 ○テクノボランティアは前年通り7月12日に実施 【P T A活動の推進】 ○各事業ごとにH P、まちこみメールを発信し参加者の増加を促した ○各事業の参加者はクラス2級などの影響もあり概ね減少傾向 ○昨年までの手話講演会を、手話だけでなく人権研修会として内容を広げた形で実施	【職業意識の育成】 ○企業、地域進路から求められる能力を習得 ○生徒自身が個性を活かせる進路の決定 【進路指導の徹底】 ○キャリア教育の視点に加え、進路目標を早い段階で確立 ○一部目の就職試験合格者率90%以上 ○新入生制度に対応した、希望する進学先への合格指導 【地域との連携】 ○地域行事、地域と連携した異世代活動等への参加 【P T A活動の推進】 ○保護者、地域を中心とした本校の教育活動方針の理解の深化 ○保護者、地域の力や本校の生徒指導方針に賛同した生徒の見つけ ○保護者などが参加し、やすい事業の計画	【人材育成】 ○企業、地域進路から求められる能力を習得 ○生徒自身が個性を活かせる進路の決定 【進路指導の徹底】 ○キャリア教育の視点に加え、進路目標を早い段階で確立 ○一部目の就職試験合格者率90%以上 ○新入生制度に対応した、希望する進学先への合格指導 【地域との連携】 ○地域行事、地域と連携した異世代活動等への参加 【P T A活動の推進】 ○保護者、地域を中心とした本校の教育活動方針の理解の深化 ○保護者、地域の力や本校の生徒指導方針に賛同した生徒の見つけ ○保護者などが参加し、やすい事業の計画	【人材育成】 ○今年度、コロナウイルスの影響により企業見学、インターシップ、資格検定試験等 ○技能検定3級、第二種電気工事士・Q・C検定(局)が中止あるは延期 ○部活動は中止の状況が続き、10月の2年生分野別選抜大会は中止(50名選手が参加した) ○資格・検定試験の合格率は初級C・D検定2級(28/34) ○機械検定検定24% (9/38) パソコン利用検定2級33%(2/6) ○危険物乙種4類44% (3/21) 【交通安全】 ○今年度、コロナウイルスの影響により企業見学、インターシップ、資格検定試験等 ○技能検定3級、第二種電気工事士・Q・C検定(局)が中止あるは延期 ○部活動は中止の状況が続き、10月の2年生分野別選抜大会は中止(50名選手が参加した) ○資格・検定試験の合格率は初級C・D検定2級(28/34) ○機械検定検定24% (9/38) パソコン利用検定2級33%(2/6) ○危険物乙種4類44% (3/21) 【交通安全】 ○今年度、コロナウイルスの影響により企業見学、インターシップ、資格検定試験等 ○技能検定3級、第二種電気工事士・Q・C検定(局)が中止あるは延期 ○部活動は中止の状況が続き	【人材育成】 ○今年度、コロナウイルスの影響により企業見学、インターシップ、資格検定試験等 ○技能検定3級、第二種電気工事士・Q・C検定(局)が中止あるは延期 ○部活動は中止の状況が続き、10月の2年生分野別選抜大会は中止(50名選手が参加した) ○資格・検定試験の合格率は初級C・D検定2級(28/34) ○機械検定検定24% (9/38) パソコン利用検定2級33%(2/6) ○危険物乙種4類44% (3/21) 【交通安全】 ○今年度、コロナウイルスの影響により企業見学、インターシップ、資格検定試験等 ○技能検定3級、第二種電気工事士・Q・C検定(局)が中止あるは延期 ○部活動は中止の状況が続き、10月の2年生分野別選抜大会は中止(50名選手が参加した) ○資格・検定試験の合格率は初級C・D検定2級(28/34) ○機械検定検定24% (9/38) パソコン利用検定2級33%(2/6) ○危険物乙種4類44% (3/21) 【交通安全】 ○今年度、コロナウイルスの影響により企業見学、インターシップ、資格検定試験等 ○技能検定3級、第二種電気工事士・Q・C検定(局)が中止あるは延期 ○部活動は中止の状況が続き		
			④	地域や産業界との連携	【職業意識の育成】 ○企業、地域進路から求められる能力を習得 ○生徒自身が個性を活かせる進路の決定 【進路指導の徹底】 ○キャリア教育の視点に加え、進路目標を早い段階で確立 ○一部目の就職試験合格者率90%以上 ○新入生制度に対応した、希望する進学先への合格指導 【地域との連携】 ○地域行事、地域と連携した異世代活動等への参加 【P T A活動の推進】 ○保護者、地域を中心とした本校の教育活動方針の理解の深化 ○保護者、地域の力や本校の生徒指導方針に賛同した生徒の見つけ ○保護者などが参加し、やすい事業の計画	【職業意識の育成】 ○企業、地域進路から求められる能力を習得 ○生徒自身が個性を活かせる進路の決定 【進路指導の徹底】 ○キャリア教育の視点に加え、進路目標を早い段階で確立 ○一部目の就職試験合格者率90%以上 ○新入生制度に対応した、希望する進学先への合格指導 【地域との連携】 ○地域行事、地域と連携した異世代活動等への参加 【P T A活動の推進】 ○保護者、地域を中心とした本校の教育活動方針の理解の深化 ○保護者、地域の力や本校の生徒指導方針に賛同した生徒の見つけ ○保護者などが参加し、やすい事業の計画	【職業意識の育成】 ○企業、地域進路から求められる能力を習得 ○生徒自身が個性を活かせる進路の決定 【進路指導の徹底】 ○キャリア教育の視点に加え、進路目標を早い段階で確立 ○一部目の就職試験合格者率90%以上 ○新入生制度に対応した、希望する進学先への合格指導 【地域との連携】 ○地域行事、地域と連携した異世代活動等への参加 【P T A活動の推進】 ○保護者、地域を中心とした本校の教育活動方針の理解の深化 ○保護者、地域の力や本校の生徒指導方針に賛同した生徒の見つけ ○保護者などが参加し、やすい事業の計画	【職業意識の育成】 ○企業、地域進路から求められる能力を習得 ○生徒自身が個性を活かせる進路の決定 【進路指導の徹底】 ○キャリア教育の視点に加え、進路目標を早い段階で確立 ○一部目の就職試験合格者率90%以上 ○新入生制度に対応した、希望する進学先への合格指導 【地域との連携】 ○地域行事、地域と連携した異世代活動等への参加 【P T A活動の推進】 ○保護者、地域を中心とした本校の教育活動方針の理解の深化 ○保護者、地域の力や本校の生徒指導方針に賛同した生徒の見つけ ○保護者などが参加し、やすい事業の計画	【職業意識の育成】 ○企業、地域進路から求められる能力を習得 ○生徒自身が個性を活かせる進路の決定 【進路指導の徹底】 ○キャリア教育の視点に加え、進路目標を早い段階で確立 ○一部目の就職試験合格者率90%以上 ○新入生制度に対応した、希望する進学先への合格指導 【地域との連携】 ○地域行事、地域と連携した異世代活動等への参加 【P T A活動の推進】 ○保護者、地域を中心とした本校の教育活動方針の理解の深化 ○保護者、地域の力や本校の生徒指導方針に賛同した生徒の見つけ ○保護者などが参加し、やすい事業の計画
4	④	業務改善の取組	○定期的な執務室の清掃を実施 ○共有フォルダを再構成し、業務の手順書の作成を依頼したが年度用のフォルダの構成が未完成となり、不十分な状況 ○印刷機関係の修理を実施。特別支援教育関係の修理も完了した ○時間外勤務が8時間以上の職員 3人(4月)→0人(3月)	○5/5の実践により、業務場所や共有フォルダの整理・整備を行うとともに、QCストーリーに則し、計画、見直し、次期に向けた修正を行い、業務内務の理解 ○印刷機関係の修理を実施。特別支援教育関係の修理も完了した ○部活動における休校日、活動時間を設定し、時間外業務年間360時間月45時間以内で削減する ○職員R2年度の平均時間外業務時間H29年度比25%削減をめざす	○定期的な執務室の清掃の実施及び共有フォルダの使用ルールの設定、担当ごとの要項、または手順書を作成し、業務終了後は修正の作成については未確認 ○印刷機関係の修理を実施。特別支援教育関係の修理も完了した ○時間外勤務関係の修理を実施。特別支援教育関係の修理も完了した ○時間外業務関係の修理を実施。特別支援教育関係の修理も完了した	○執務室の清掃については各部署ごとに実施。共有フォルダの使用ルール、業務ごとの要項または手順書の作成については未確認 ○印刷機関係の修理を実施。特別支援教育関係の修理も完了した ○時間外勤務関係の修理を実施。特別支援教育関係の修理も完了した ○時間外業務関係の修理を実施。特別支援教育関係の修理も完了した	○執務室の清掃については各部署ごとに実施。共有フォルダの使用ルール、業務ごとの要項または手順書の作成については未確認 ○印刷機関係の修理を実施。特別支援教育関係の修理も完了した ○時間外勤務関係の修理を実施。特別支援教育関係の修理も完了した ○時間外業務関係の修理を実施。特別支援教育関係の修理も完了した	○執務室の清掃については各部署ごとに実施。共有フォルダの使用ルールについては見直しを検討する ○業務終了後は修正の作成については未確認 ○印刷機関係の修理を実施。特別支援教育関係の修理も完了した ○時間外勤務関係の修理を実施。特別支援教育関係の修理も完了した ○時間外業務関係の修理を実施。特別支援教育関係の修理も完了した	B

注) S S : 整理・整頓・清掃・清潔・躰あび : 挨拶・作法・人の話を聴くハイパー・Q Uアンケート : よりよい学校生活と友達づくりのためのアンケートデュアルシステム : 学校の授業と並行して企業で学習するシステムテクノボランティア : 学んだ専門技術を生かした地域へのボランティア活動AL : アクティブ・ラーニングQC (品質管理) ストーリー : 問題解決の手順PDCA:Plan・Do・Check・Actionの4段階で業務改善

評価基準 A：十分達成(100%) B：概ね達成(80%程度) C：変化の兆し(60%程度) D：まだ不十分(40%程度) E：目標・方策の見直し(30%以下)